

## 増毛町水道事業経営戦略

団 体 名 : 増毛町

事 業 名 : 水道事業

改 定 日 : 令和 7 年 2 月

計 画 期 間 : 令和 6 年度 ~ 令和 15 年度

## 1. 事業概要

## (1) 事業の現況

## ① 給水

供用開始年月日	昭和26年12月1日	計画給水人口	5,500 人
法適(全部・財務) ・非適の区分	法適(全部)	現在給水人口	3,213 人
		有収水量密度	3.02 千m <sup>3</sup> /ha

## ② 施設

水源	<input checked="" type="checkbox"/> 表流水, <input type="checkbox"/> ダム, <input type="checkbox"/> 伏流水, <input type="checkbox"/> 地下水, <input type="checkbox"/> 受水, <input type="checkbox"/> その他 (複数選択可)			
施設数	浄水場設置数	1	管路延長	62 千m
	配水池設置数	2		
施設能力	3,000 m <sup>3</sup> /日	施設利用率	34 %	

## ③ 料金

料金体系の概要・考え方	用途別とし、基本料金、超過料金及び量水器使用料(口径別)を賦課している。
料金改定年月日 (消費税のみの改定は含まない)	令和5年4月1日

## (水道料金)

用途	区分	基本料金		超過料金
		基本水量	料金	1m <sup>3</sup> につき
家事用	1ヶ月	8m <sup>3</sup> まで	2,000円	209円
営業用	"	10m <sup>3</sup> まで	2,728円	254円
団体及び会社用	"	20m <sup>3</sup> まで	4,364円	190円
鮮魚加工用	"	50m <sup>3</sup> まで	10,909円	127円
機械冷却用	"	100m <sup>3</sup> まで	10,909円	118円
製氷用	"	50m <sup>3</sup> まで	10,909円	181円
浴場用	"	100m <sup>3</sup> まで	10,909円	127円
臨時用	"	10m <sup>3</sup> まで	2,728円	273円
船舶用	"	1m <sup>3</sup> まで	273円	273円

## (消費税別)

## (量水器使用料)

口径	料金
13mm	1ヶ月 364円
20mm	" 428円
25mm	" 446円
30mm	" 555円
40mm	" 637円
50mm	" 2,400円
75mm	" 3,000円

## ④ 組織

○組織体制	上下水道課長 ┌ 課長補佐 ─ 上水道係長 ─ 主任技師 ─ 会計年度任用職員(徴収) └ 技術担当課長補佐												
○年齢構成等	<table border="1"> <tr><td>20代</td><td>0人</td></tr> <tr><td>30代</td><td>0人</td></tr> <tr><td>40代</td><td>1人</td></tr> <tr><td>50代</td><td>5人</td></tr> <tr><td>60代</td><td>0人</td></tr> <tr><td>合計</td><td>6人</td></tr> </table>	20代	0人	30代	0人	40代	1人	50代	5人	60代	0人	合計	6人
20代	0人												
30代	0人												
40代	1人												
50代	5人												
60代	0人												
合計	6人												

## (2) これまでの主な経営健全化の取組

・必要最小限の維持管理費による事業運営。資本費平準化借入による返済資金の確保。

## (3) 経営比較分析表を活用した現状分析

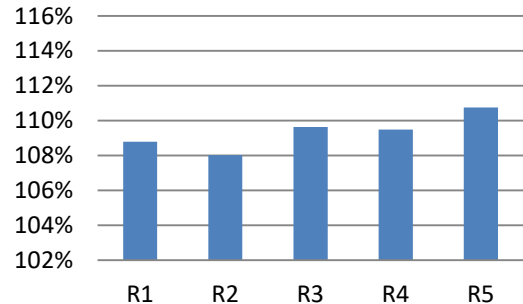
別添経営比較分析表参照(令和5年度)

# 経営比較分析表(令和5年度決算)

## 【 水道事業 】

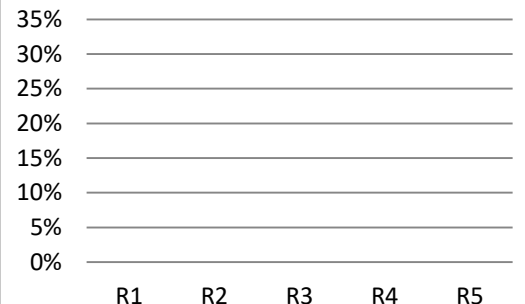
### 1. 経営の健全性・効率性

① 経常収支比率(%)



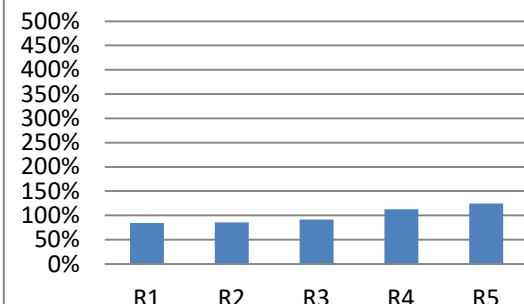
R1	R2	R3	R4	R5
108.78%	108.02%	109.63%	109.48%	110.74%

② 累積欠損金比率(%)



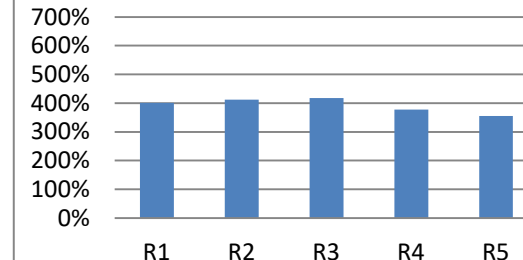
R1	R2	R3	R4	R5
0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

③ 流動比率(%)



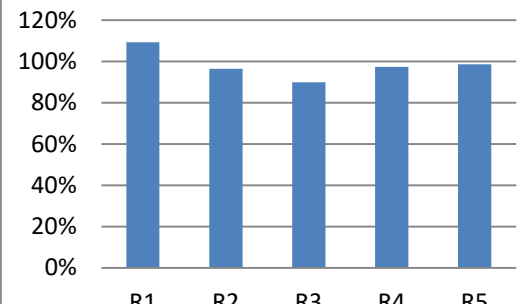
R1	R2	R3	R4	R5
83.97%	85.46%	91.22%	112.34%	124.50%

④ 企業債残高対給水収益比率(%)



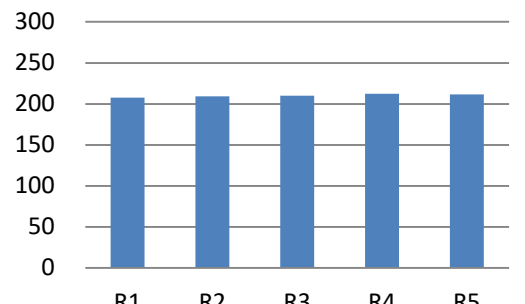
R1	R2	R3	R4	R5
400.55%	412.37%	417.94%	377.22%	354.92%

⑤ 料金回収率(%)



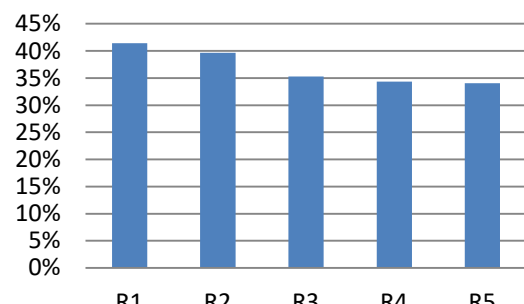
R1	R2	R3	R4	R5
109.36%	96.57%	89.99%	97.44%	98.74%

⑥ 給水原価(円)



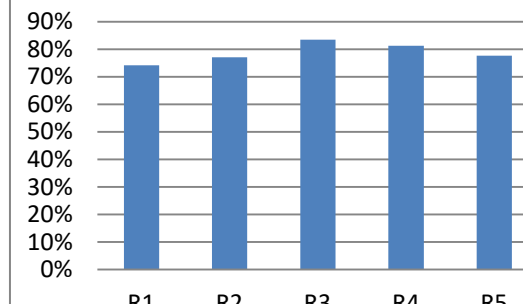
R1	R2	R3	R4	R5
207.6	209.26	210.16	212.15	211.39

⑦ 施設利用率(%)



R1	R2	R3	R4	R5
41.43%	39.63%	35.29%	34.33%	34.07%

⑧ 有収率(%)



R1	R2	R3	R4	R5
74.26%	77.08%	83.54%	81.35%	77.69%

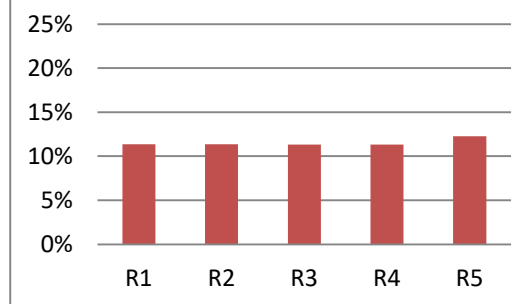
### 2. 老朽化の状況

① 有形固定資産減価償却率(%)



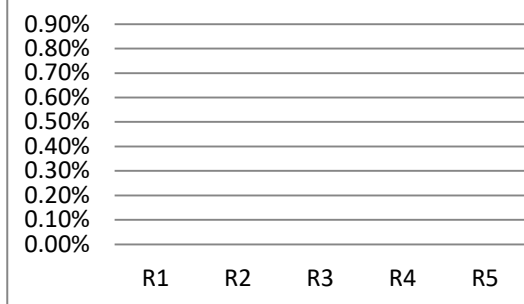
R1	R2	R3	R4	R5
60.27%	62.37%	64.22%	65.66%	67.22%

② 管路経年化率(%)



R1	R2	R3	R4	R5
11.36%	11.36%	11.32%	11.32%	12.26%

③ 管路更新率(%)



R1	R2	R3	R4	R5
0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は平成9年度から100%超を維持している。流動比率については、企業債償還金の減少により減少傾向にある。企業債残高対給水収益比率については企業債残高が年々減少しているため減少傾向にある。料金回収率については令和2年度以降、水道基本料金減免事業を実施しているため100%を下回っているが減免分を加味した実質的な令和5年度の率は109.91%となっている。給水原価については物価上昇、労務費の増加により上昇傾向にある。施設利用率は人口減少による給水量の減少から年々低下している。

### 2. 老朽化の状況について

財政状況の悪化から更新事業を抑制しているため、施設の老朽化が年々進行している。法定耐用年数を超えた管路等については年々増加している。

### 全体総括

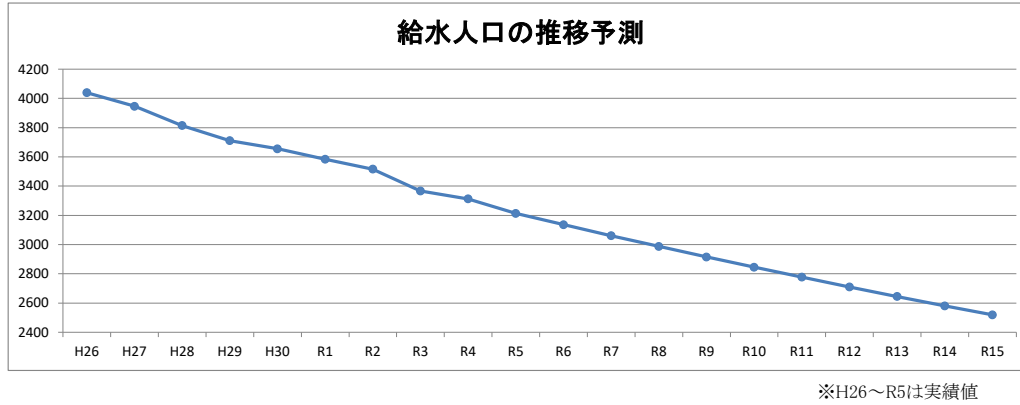
令和5年度より水道事業と簡易水道事業の会計が統一されたことにより、簡易水道事業の純損失が水道事業に吸収されたが、今後人口減少により給水収益がさらに減少していくことが予想されるため経営安定化のため料金改定を検討する必要がある。また、給水人口が5千人をきっていることから水道事業について簡易水道事業への認可変更も検討する必要がある。

## 2. 将来の事業環境

### (1) 給水人口の予測

過去の給水人口の推移により将来の給水人口を予測しており、令和15年度の給水人口は2,519人と予測。(現在給水人口×人口減少率)

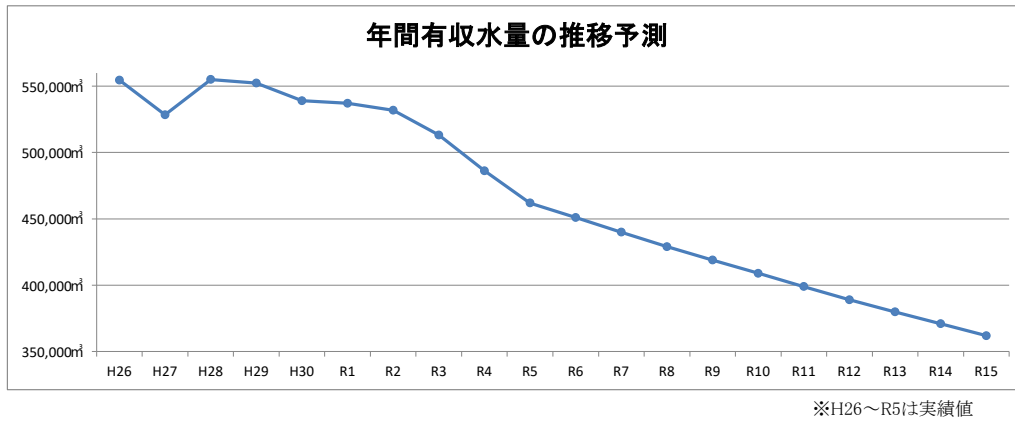
年 度	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
給 水 人 口 (人)	3,136	3,061	2,987	2,915	2,845	2,777	2,710	2,645	2,581	2,519



### (2) 水需要の予測

給水人口予測により用途別給水量を推計し、今後の水需要を予測している。給水人口同様、水需要予測も年々減少している。

年 度	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
年間配水量 (千 $m^3$ )	557	543	530	517	505	493	480	469	458	447
年間有収水量 (千 $m^3$ )	451	440	429	419	409	399	389	380	371	362
有 収 率 (%)	81.0	81.0	81.0	81.0	81.0	81.0	81.0	81.0	81.0	81.0

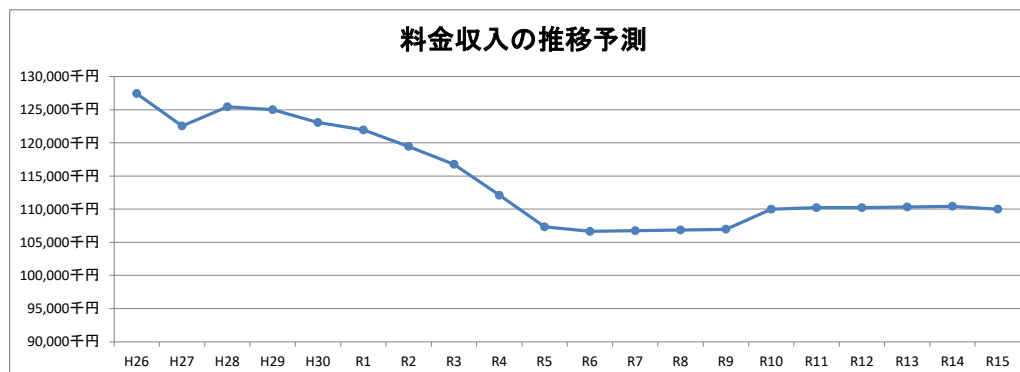


### (3) 料金収入の見通し

給水人口予測による用途別給水量を推計した水需要により、今後の水道料金収入を予測している。給水人口減少により、水道料金収入も年々減少している。

※税抜き

年 度	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
水道料金収入 (千円)	106,641	106,750	106,967	106,973	110,016	110,120	110,226	110,333	110,442	110,007



(4) 組織の見直し

現在、増毛町定員適正化計画により職員数の削減や定数適正化に努めている。また、今後も事務事業の見直し、業務の外部委託等の検討を行う。

3. 経営の基本方針

当施設は暑寒別川を水源とし、計画給水人口5,500人、配水能力は日3,000㎥となっている。  
 当水道事業経営は、過疎化による人口減少及び住民の節水意識の向上により、今後更に給水収益の減少が見込まれ、厳しい経営状況が予想される。そのため、料金水準の適正化、事務事業の見直し、徹底した経営の効率化に取り組み、安心で安全な良質の飲料水を安定的に供給します。  
 町全体の給水人口が5000人を下回っていることから、水道事業から簡易水道事業への変更を検討する。

4. 投資・財政計画(収支計画)

(1) 投資・財政計画(収支計画)：別紙のとおり

(2) 投資・財政計画(収支計画)の策定に当たっての説明

① 収支計画のうち投資についての説明

目	標	施設等の更新は必要最低限とする。
---	---	------------------

・耐用年数を超えた配水管等の更新事業の平準化を図るため、施設等更新計画を策定する。  
 ・量水器交換工事の他は、年間2百万円の修繕工事を計上する。(令和7～10年度は中央監視装置の更新工事を計上する)

② 収支計画のうち財源についての説明

目	標	人口減少等に伴い料金収入は減少するが、当面は一般会計からの繰り入れは行わず料金収入での健全経営に取り組む。
---	---	---

・水道料金収入は、給水人口予測による用途別給水量を推計した水需要により予測している。  
 ・国庫補助等の収入は現在見込んでいないが、水道事業の所管省庁が国土交通省に移管されたことにより補助メニューが拡充されているため利用できるものがあれば検討する。

③ 収支計画のうち投資以外の経費についての説明

・委託料は、検針及び料金徴収業務、水質検査業務等を委託し、人件費の削減を図る。  
 ・修繕費は、機器等の定期的な点検補修の実施により、経費の削減を図る。  
 ・動力費は過去の実績値を引き続き計上している。  
 ・職員給与費は、前年比1%増で計上している。

(3) 投資・財政計画(収支計画)に未反映の取組や今後検討予定の取組の概要

① 投資の合理化、費用の見直しについての検討状況等

広	域	化	近隣自治体と広域化の検討に努める。
民間の資金・ノウハウ等の活用 (PPP / PFI の導入等)			必要に応じ検討する。
アセットマネジメントの充実 (施設・設備の長寿命化等による投資の平準化)			既存の施設・設備の長寿命化に努め、投資の平準化に努める。
施設・設備の廃止・統合 (ダウンサイジング)			浄水場の更新の際に、人口減少による給水量の減少に伴い、ダウンサイジング及び近接簡易水道事業との統合を検討する。
施設・設備の合理化 (スペックダウン)			施設・設備の更新時に現状に合わせた規模への合理化を図る。
その他の取組			特にありません。

② 財源について検討状況等

料	金	令和5年度から料金の消費税を内税から外税に変更したが現行料金を超えないよう料金設定をしているため実質的に増額していない。今後、収支の推移・状況を勘案し料金改定の判断をします。	
企	業	債	令和2年度から7年度まで資本費平準化債の借入を行い返済資金を確保する。その他施設整備の際に水道事業債の借入の判断を行う。
繰	入	金	一般会計からの繰入金はありません。
資産の有効活用等(*2)による 収入増加の取組			遊休資産はありません。
その他の取組			特にありません。

5. 経営戦略の事後検証、更新等に関する事項

経営戦略の事後検証、 更新等に関する事項	概ね5年毎に見直しを行い、経営戦略の事後検証、更新を行う予定である。
-------------------------	------------------------------------



